平成30年度　安曇野市中学生
海外ホームステイ交流派遣事業
体験作文集

平成31年3月16日(土) から平成31年3月25日(月)

安曇野市・安曇野市教育委員会

目次

事業概要				1
ホームステイを通して	豊科南中学校	３年１組	大倉　彩水	2
TRY & CHALLENGE	豊科南中学校	３年４組	横山　美佑	3
靴の汚れが成長の証	豊科北中学校	３年４組	若林　亜結	4
かけがえのない人々との出会い	穂高東中学校	３年３組	磯部　響	5
多文化共生を実感した時間	穂高東中学校	３年３組	宇留賀　蓮華	6
語学は世界へのパスポート	穂高東中学校	３年１組	染谷　歌桜	7
TRY & CHALLENGE	穂高西中学校	３年３組	江澤　彩夏	8
I did it!	穂高西中学校	３年３組	小林　未來	9
ホームステイを体験して	穂高西中学校	３年４組	榍原　己空	10
ホームステイ体験を通して	三郷中学校	３年４組	相澤　桃香	11
Thank you オーストラリア	三郷中学校	３年３組	飯嶌　七虹	12
これからの私	三郷中学校	３年３組	扇谷　梨央	13
文化交流	堀金中学校	３年１組	長谷川　麗	14
ホームステイで得たこと	堀金中学校	３年２組	平沢　萌果	15
～旅の記録～				16

事業概要

１　目　　的

本事業は、市内中学生が海外のホームステイの体験を通じて、異なる文化、英会話の基礎を学び、グローバル化が急速に進む現代社会において、すぐれた国際感覚とコミュニケーション力により活躍できる人材を育成することを目的とします。

２　派 遣 先

オーストラリア　メルボルン

３　日　　程

平成 31 年３月 16 日（土）から平成 31 年３月 25 日（月）までの 10 日間

月　日	日　程
３／16(土)	出発（安曇野市役所） 成田国際空港⇒メルボルン国際空港⇒ホテル
３／17(日)	ウェルカムパーティー(ビーチにてオーストラリア式ＢＢＱ) ホストファミリーと対面、各ホストファミリー宅へ移動
３／18(月) ～３／20(水)	Stella Maris Primary School(小学校)で通常授業に参加 全校生徒で大玉送りを実施 副校長より各生徒へ修了証を授与
３／21(木)	Kilbreda College(中学校・高校)で交流
３／22(金)	メルボルン動物園・ビクトリアマーケット等を観光
３／23(土)	各ホストファミリーと観光・ショッピング
３／24(日)	ホストファミリーとお別れ メルボルン国際空港⇒成田国際空港
３／25(月)	成田国際空港⇒安曇野市役所

４　参 加 者

市内中学校に在学する生徒 14 名

引率者：安曇野市教育委員会　学校教育課　主任　野中　みさき

中学校英語科教員（豊科南中学校教諭）　浅原　規貴

ホームステイを通して

豊科南中学校　３年１組　大倉　彩水

　私は今回のホームステイで日本との違いを常に感じて過ごしてきました。その違いの例を２点あげます。１つ目は、運動量です。私のホストファミリーはよく私をサイクリングに連れて行ってくれました。サイクリングをしている際に見えるのは、多くの人がランニングやサイクリングをしている姿です。また、ホストマザーとウォーキングをしたときには、往復で６キロ程の距離を２時間かけてゆっくりとですが、ビーチ沿いを歩きました。私のホストマザーはホッケーの選手で週に３回ほど練習をしていて、ホストブラザーのジェイクは４つのスポーツ系の習い事をしていました。メルボルンの人々は、日常的に多くのスポーツをしていて、それを趣味として行っている人が日本に比べてとても多いと感じました。それは、交通道路での自転車専用の道路が広いことや自然環境などの数多い環境の違いがでているのではないかと思いました。

　もう１つは、学習環境の違いです。私たちが行った中高一貫校は私立の学校ということもありますが、教室の数がとても多かったです。例えば、理科の教室は用途に合わせて使い分けていて、５つの教室があるそうです。また、日本でいう被服室は２つの教室があり、別に調理室もありました。授業では、図書館に行ってコンピューターを使ったり、学年ごとに生徒が使えるスペースがあり、多くの生徒がその場所で学習をしていました。このように、学習環境には大きな違いがあり、生徒が過ごしやすいような工夫が多くされていました。また、日本語のクラスもあり、日本人の私たちが英語、彼女らが日本語を話す、というように会話をしました。彼女たちに質問をした中で一つ紹介したいものがあります。私が、「日本人と中国人は見た目がすごい似ているけど、違いはつく？」と聞きました。すると、彼女たちは「日本人と中国人は性格や文化があまりにも違いすぎるし、第一に日本人は性格がとても良くて優しい」と言ってくれました。このように日本人の性格については多くの人たちから褒められることが多かったです。私のホストファミリーが公園に連れて行ってくれた時に、タイから引っ越してきたという親子のお母さんに、「日本人はとても優しくて、私たち外国人にも親切にしてくれる」と言ってくれました。私はこれらの言葉の１つ１つが、自分のことではないけれど、同じ日本人としてとても嬉しかったです。

　私は、ホストファミリーに多くの経験をさせてもらえました。それらの多くは今までしたことのないことばかりでしたが、挑戦をするたびに「Nice Challenge」と言ってくれました。これからも多くのことにチャレンジをしていきたいです。

TRY & CHALLENGE

豊科南中学校　３年４組　横山　美佑

私は、この 10 日間のホームステイで大切な事を沢山学んできました。このホームステイは１年生の頃から憧れていた事業なので、参加された先輩たちのようなかっこいい姿になりたいと思いのぞみました。

最初に英会話レッスンが始まった時は、正直、楽しみ半分、不安半分でした。なぜなら、自分が初めて異国の世界へ１人だけで旅立つということはすごく大変なことだからです。そして、オーストラリア現地へ着くと、周りの人が話す言葉がすべて英語であるからです。いざ目の前の外国人と話してみようとしても、どのようにしたらよいのか迷ってしまう自分がいました。やはり、最初は自分の思うように英語を話すことができませんでしたし、日本語を一切話さないことはすごく辛いことでした。しかし、新しい自分を見つけるために、CHALLENGE をしようと心に決めました。

ホストファミリーと初日を過ごす時に躊躇してしまう自分がいました。しかし、ホストマザーが「大丈夫」と言って来てくれた時は、すごく安心した気持ちになりました。私は、ホストシスターが通う小・中学校へ行き、様々な場所で沢山のことを学びました。その中でも、私が一番印象に残っているのは、ホストスクールで小学生達が休み時間になると、外へ出て皆元気よく遊んでいたときのことです。私は、子供達に誘われて校庭へ行きました。私は、「鬼ごっこしよう」という言葉が聞き取れなくて困っていたところ、ある子がジェスチャーをしてくれました。それを見ていた周りにいた子や、ホームステイへ一緒に行った友達も入って、皆で鬼ごっこして遊びました。そこで、私はあることに気が付きました。それは、日本の鬼ごっことルールが違うという事です。でも、ルールを理解しようと遊びながら TRY しました。これをホストファミリーに話したところ、「That's grate」「You can try」と言ってくれました。それなので、いろいろなことに TRY しようと思いました。

ホームステイ中盤から徐々に英語を話せるようになり、ホストファミリーと一緒に話すことも楽しくなりました。このような生きた英語を学んだことは初めてで、楽しくもありましたが、まだまだ勉強しないといけないという気持ちにもなりました。このようなことから、新しい自分への第一歩を踏み出しているのでは？と感じるようになりました。

この 10 日間で学んだ大切なことは、TRY & CHALLENGE でした。生きた英語を学んだからこそ、大切だと思えるのです。この経験、体験を自分の将来に少しでも役に立てることが出来れば良いと思いました。

良い体験をすることができました。

「靴の汚れが成長の証」

豊科北中学校　３年４組　若林　亜結

私は将来看護師になり、海外でお金のない人を助けたい。そのために英語を話せるようになりたい。というのが応募のきっかけでした。決定通知が届いたときは、これは本当に自分のものなのかと目を疑うほど信じられず、とても嬉しかったです。

出発当日、本当に行くのかと実感がわかず不安０。楽しみ100。の状態でメルボルンへ向かいました。メルボルンに到着すると目にする文字全てが英語だったり、目にしたことのないものばかりだったりで、夢の国にいるような気分になりました。ついに楽しみにしていたホストファミリーと対面の日、私のホストファミリーは沢山話しかけてくれました。しかし、話すスピードが速く何を言っているのか理解することができませんでした。そんな私に手振りで示したり、ゆっくり話したりと会話ができるように工夫してくれました。その時私は、これからどんなわくわくすることが始まるのだろうと期待を抱きながら、オーストラリアでの生活が始まりました。

一日一日と靴が汚れるにつれて耳が英語に慣れてきて、話のキーワードを聞き取れるように、自分から話を始められることができました。しかし、１つだけなかなかできないことがありました。それは、分からない時に「分からない」と言うことです。私は日本の授業で分からなくても聞くことができていませんでした。それはオーストラリアでの生活でも変わらず、分からなくても「大丈夫だろう」と必要のない自信を持っていました。そんなある日、ホストシスターと会話をしていると、私が通じない英語を話すと「what?」とすぐに聞いてきました。その時私は、「分からない」と伝えることで繋がろうとしてくれているのだと気づきました。その日から分からないことはしっかり伝えようと思い、実行し始めました。

オーストラリアで生活するなかで他にも、知らない人でも前から仲が良かったように話をしたり、みんなが積極的だったりと、日本とは違う文化を学ぶことができました。一方、いつも私たちが当たり前にしている礼儀正しいところや、時間に厳しいところなどは、オーストラリアでは当たり前ではないのだと日本の良いところを改めて感じることができました。

私は、このホームステイを通してここには書けないほど沢山のことを学び、成長することができました。その一方で、「私の英語力はまだまだ海外で働くほどの実力ではない。だから、もっともっと勉強して話せるようになりたい。」と目標を持つことができました。再びメルボルンを訪れてホストファミリーと会いたい、話したい、という夢もできました。

最後に私たちのために準備をしてくださった方々、沢山の方々、そして一緒に行った 13 人の仲間。沢山の支えがあったからこそ成り立った 10 日間でした。本当にありがとうございました。

「かけがえのない人々との出会い」

穂高東中学校　３年３組　磯部　響

僕の将来の夢は医者になることです。その夢の実現に向けて、コミュニケーション能力と英語力を高めようと思い、この研修に参加させていただきました。

初めてホストファミリーに会ったのは現地に着いて２日目のビュ―マリスビ―チでした。第一印象はすごく明るく楽しそうな家族で、すぐに僕をビーチに連れていってくれました。まだ慣れていない僕のために、ホストファミリーは積極的に話しかけてくれ、特に2人の子供ゼインとジミーは僕にすぐになついてくれました。こうして本格的なホームステイが始まりました。翌日からは現地の小学校に子供達といっしょに登校しました。日本の小学校とは環境も校風も大きく異なっていました。まず驚いたのは、教室に行ってすぐにホストブラザーの友達たちが勢いよく自己紹介と質問をしてきたことです。初めて会った僕に何のためらいもなく話しかけてくれる子供たちが大勢いて、日本との文化の違いを感じました。また、授業中は英語の音読に参加したり、算数の勉強のお手伝いをしたり、折り紙を折ってあげたりしました。休み時間になるとみんなでサッカーをして、あっという間に3日間が過ぎました。どの子も皆優しくフレンドリーで、過ごしやすく、英語を通したコミュニケーションができてすごく楽しかったです。

次のキルブリダカレッジでは同世代との交流ができました。特に日本の文化として空手の紹介をしました。実際に胴着を着て形や組手を披露し、日本の武道を伝えることができました。現地の生徒達が興味を持って見てくれて、とても喜んでくれて嬉しかったです。

翌日は市内観光でメルボルンを満喫しました。この頃になると現地の生活にも慣れ、自分から積極的にホストファミリーと交流ができました。日本の代表食であるカレーライスをいっしょに作ったり、ゼインやジミーとけん玉やしゅりけんを作ったりして遊びました。週末にはローンまでの小旅行にも連れて行ってくれて、海水浴をしたり海辺でフィッシュアンドチップスを食べたりしました。海に映る夕日の美しさを一生忘れません。

10 日間はあっという間に過ぎとうとうお別れの時が来ました。ホストファミリーと別れる時は寂しさと感謝の気持ちでいっぱいでした。この研修を通して、僕は生涯を通じてかけがえのない人々に出会うことができました。優しいお父さんとお母さん、おもしろくて人懐こい子供達の家でホームステイができて、本当に良かったと思いました。また、現地で出会った様々な人々、いっしょに旅をした 13 名の仲間たち、支えてくれたスタッフの皆さん、僕の家族全てにありがとうを伝えたいと思いました。最高のホームステイ研修になり、僕にとって、とても大きな自信となりました。この研修で学んだ英語力やコミュニケーション能力の大切さをこれからの生活に活かし、将来の夢に向けて頑張りたいと思います。またホストファミリーと再会する約束をしたので、その日をとても楽しみにしています。

多文化共生を実感した時間

穂高東中学校　３年３組　宇留賀　蓮華

普通だと思っていたことが、実は普通ではなかった。それを強く感じた 10 日間でした。小学生の頃から、授業中は静かにする、先生が話している間は黙って話を聞く、自分の想いを書く時間は静かに書く、それが当たり前だと思っていました。しかしステラマリス小学校では、先生が音読する本のタイトルを読み上げた途端、質問の嵐でした。それに対し先生は、嫌な顔ひとつせず、１人ずつ丁寧に答えていきます。全ての質問が終わるまで、授業を進めることはありません。低学年の授業でも、高学年の授業でもそれは同じでした。

音楽の授業では、何人かのグループになって創作ダンスをしました。私はホストバディーの子と、その友達の女の子と 3 人でグループを作っていました。すると、男の子が１人やってきて「あっちのグループに入れなかったから、僕をここにいれて」と言いました。一緒のグループの女の子たちは「もちろん！」と何も躊躇することなく笑顔で答えていました。私は驚きました。男の子が女の子のグループに入ってきたその勇気に。そして、それを快く受け入れた女の子達に。ただ、その後、この出来事に驚いた自分に疑問を持ちました。どうして男女一緒のグループではいけないのか？いつから私はそんなふうに思うようになったのか？と。

授業は静かに受けるものだ、という当たり前も、グループ分けは男女別なのが普通だ、という思いも、実はそうではないのかもしれない。日本で空気を読んで「普通でいよう」「変に目立たないようにしよう」と考えていること自体がまず普通じゃないのかもしれない、と思うようになりました。

普通ってなんだろう？国や宗教によって変わってくるとは思いますが、「普通」という概念が色々な文化を作っていっているのかな、と思いました。今、あちらこちらで言われている「多文化共生」というのは、こういったそれぞれの文化、それぞれの普通を知ることから始まるのかもしれません。「学校での授業」という一面を見ただけで、私が考える普通とは違う普通を多く知ることができました。オーストラリアの教育が全て正解で、日本の教育が間違っているというわけではありません。それぞれにいいところがあると思います。教育以外にも、生活文化、食文化、など異なる場面がたくさんあります。お互いに「違う」を認め合うためには、相手を「知る」ことから始まるのだと私は考えます。

だから私は、もっと色々な文化を知りたいと思いました。そして、色々な国の人と友達になって、私が思う普通とは違う普通を見たいと思いました。14 歳という年齢でこのような貴重な体験ができ、また、学校の友人とは違った絆で結ばれた友人もできました。この経験をこれからの人生にしっかりと活かし、当たり前を疑うことを意識して暮らそうと思います。この度は本当に、ありがとうございました。

語学は世界へのパスポート

穂高東中学校　３年１組　染谷　歌桜

私は昔から海外へ行くのが夢で、海外の方と沢山話をしてみたいと思っていました。しかし、ホームステイが決定する前は自分が話す英語に自信がありませんでした。今回ホームステイ研修に参加させていただき、「英語で話すことってこんなに楽しいんだ！これからもっと英語で話す機会が欲しい」と思うようになり、英語の学習を、さらに意欲的に取り組むようになりました。ホームステイ研修での 10 日間は何もかもが初めてでとても新鮮でした。オーストラリアに近づくにつれ、周りの会話が日本語から英語に変わっていくことに心を弾ませると同時に、本場の英語の速さに戸惑い不安になることもありました。

私のホストファミリーは、いつもおおらかに楽しく接してくれ私の英語に対する不安も消えていきました。会話の中でわからないことがあると、「例えば〜ってことだよ。」などと、私がわかるようにみんなで教えてくれました。また、私が話しかけると、真剣に耳を傾けてくれました。そして、自分の英語が伝わり会話ができた時には大きな達成感がありました。ホストファミリーは、おやすみやありがとうなどの日本語を日々の中で使ってくれ、私も英語をもっと積極的に使おうと思い自分から話しかけることを意識しました。そうしていくうちに、不思議と耳が英語に慣れてきて、自然と言葉が出たり今まで聞き取れる速さではなかった会話も少しずつ分かるようになっていったりするのを実感し、英語で話すことが楽しくなりました。

私は 4 日間、ホストシスターが通うステラマリス小学校へ行きました。そこで、オーストラリアの授業のスタイルやフレンドシップツリーなど、沢山の印象に残るものを見ました。私が１番印象に残ったことは、日本のように机に向かって授業を受けるのではなく、自由にホワイトボードの前に座り、質問があったら自由に手を挙げ、いろいろな子が答えたり質問をしたりという光景でした。それは、先生と生徒とが一緒に意見を出し合い授業を進めていて、日本ではあまり見ない良い姿だなと思いました。また、私が授業中に「今は何をする時間なの？」と席の近い子に聞くと、その周りにいるみんなもジェスチャーなどを使って教えてくれました。また休み時間には様々なクラス・学年の子が「一緒に遊ぼう」と話しかけてくれました。みんな、たとえ私が失敗したとしても「Don’t worry.」と言って励ましてくれ、成功したら笑顔で「Nice」と言ってくれる心優しくフレンドリーな子たちばかりでした。

沢山の刺激を受け、沢山学んで、沢山の人々と出会うことができたホームステイ研修。オーストラリアの人々の優しさや元気さをいっぱい感じました。私は今回学んだことや感じたことを生かして、更に英語を身に付け、世界の橋渡しができるような人材になりたいです。ありがとうございました

TRY＆CHALLENGE

穂高西中学校　３年３組　江澤　彩夏

私はホームステイに行く前に、TRY＆CHALLENGE という目標を立てました。

普段使わない英語で会話するには、「挑戦」することがとても大切だとたくさんの人に言われていましたし、私もそう感じていたからです。また、英語で会話することは、このホームステイでの私の大きな壁でもありました。実際に話してみると、いつも学校で話すスピードと比べものにならないくらい早くて、最初は、聞き取れずに笑ってごまかしたり、失敗するのを恐れて、聞かれたことがわかっても、Yes や Ok としか言えなかったりしました。しかし、ホストファミリーが、「ハローって日本語でなんて言うの？」など積極的に日本語を知ろうとしてくれる姿を見て、目標である TRY＆CHALLENGE ができていないことに気づき、もっと挑戦しようという気持ちになれました。一生懸命聞きとろうとしても聞き取れない時は、「もう１回言って」や、「ゆっくり言って」などと言えば、ホストファミリーも嫌な顔ひとつせず、私が理解できるように話してくれました。だから私も、Yes や Ok だけでなく、一言でも何か言うことを心掛けました。そうしたら、ホストマザーに、英語が上手だねと言ってもらえ、すごく自信がつき、その日にあった出来事など自分から少しずつ話せるようになれました。私が話しているときは、ホストファミリーはいつも真剣に聞いてくれ、笑ってくれたり、そのことについて質問したりしてくれたので、ちゃんと伝わっていると思えて、失敗を恐れずに話すことができました。私にとって大きな壁であった“言葉の壁”は、挑戦することを恐れずに立ち向かったら簡単に破ることができました。

また、ホストブラザーが通うプライマリースクールは、授業スタイルが日本と違ってとても新鮮でした。先生に質問されたらみんな恥ずかしがらず、クラスのほぼ全員が挙手をする姿、わからないことがあったらすぐに手を挙げる姿をたくさん見ました。また１人１人の意見を否定せず受け入れる姿を見て、みんなが否定せずに受け入れてくれるから、堂々と自分の意見を言うことができるのだなぁと感じました。私も自分の意見を堂々と言え、人の意見を受け入れられる人になりたいと思いました。

このホームステイを通して、実際に行かないとわからないようなことを体験でき、すごく成長できました。そして、挑戦することの大切さを学ぶことができました。挑戦をしなければこんなに充実したホームステイにならなかったと思います。また、挑戦することを気づかせてくれ、私をいつも気遣ってくれたホストファミリーに感謝しています。私は、これから先もたくさんの壁にぶち当たると思いますが、いつでも挑戦することを忘れず、自分で壁を破り、前に進んでいきたいです。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

I did it!

穂高西中学校　３年３組　小林　未來

私のホームステイでの10日間はとても貴重で、とても素晴らしい思い出になりました。
私はホームステイをするうえで２つの目標を立てました。１つ目は英語力の向上です。英語が苦手な私は、日本語があまり通じない国へ行くのは不安でした。だからこそ、知っている英語を並べて伝えたいことを諦めずに伝えようと決めました。ホストファミリーの Ryan さん家族に初めて会ったとき、早速言葉の壁にぶつかりました。ホストファザーが行きたいところはあるかと聞いてくれましたが、私は聞き取ることができません。それでもホストファザーは、私が聞き取りやすいように、笑顔でゆっくり話してくれました。英語が苦手ということを伝えると、ホストファザーだけでなくホストファミリー全員が聞き取りやすく話し、私がどうしても理解できないときはネットを使ってでも会話をしようとしてくれました。私はそれがとても嬉しくて、最初は不安だった英語の会話もすぐに慣れることができ、３日目には日本とオーストラリアの違いなど様々な話をすることができました。ホストシスター・ブラザーたちは私の発音が間違っていると、しっかり発音ができるようになるまで一生懸命に教えてくれました。学校に行ったときも、周りの子供たちと話すとやはり私の発音が違ったらしく、あまり会話が成り立たなくて困りました。そんなとき、ホストシスターは私が話したいことを相手に伝えてくれました。それが伝わると、ホストシスターや他の子たちは「これはこう発音するんだよ！」「これのスペルはこうだよ！」と、様々なことを教えてくれました。英語力が向上したかは自分では分かりませんが、とても良い勉強になりました。
２つ目はコミュニケーション能力の向上です。私は元から人見知りはしませんが、外国の人に話しかけられると何故か緊張してしまい、すぐに言葉が出ませんでした。しかし、会う人話す人全員が日本語をあまり話さない場所へ行ってしまえば緊張だなんて言っていられません。ホストファミリーは私に色々な人に会わせてくれました。近所の人、親戚や友達など色々な人と話していくうちに気がつけば普通に話せるようになっていました。親戚の中には日本語を習っている人や、小学校にも日本語に興味のある子がたくさんいて、教えてほしいと言われて教えると、知った言葉を繰り返し言って嬉しそうにしていたのが私にとってとても嬉しかったです。これから先、外国の人に話しかけられてもきっと大丈夫だと思います。
私は今回のホームステイで本当に貴重で大切なことをたくさん学ばせて頂きました。学んだことをこれからの生活に、自分の未来に活かしていきたいです。

「ホームステイを体験して」

穂高西中学校　３年４組　槲原　己空

僕は「コミュニケーションを大切にし、異文化交流を楽しむ」という目標を立て、オーストラリアへ出発しました。もちろん、今まで自分が勉強してきた英語が通じるか心配でしたが、僕のホストファミリーがフォローしてくれたこともあって、今までやってきたこと事を発揮出来て良かったのです。

そして、僕はホームステイで多くのことを学びました。ひとつは、コミュニケーションの大切さです。自分が上手く言えないこと事があっても、ジェスチャーなどを使って表現してみると意外に通じたりしました。また、上手く聞き取れなかった時は、「One more time please」や「Please say it slowly」などと聞けてよかったです。初日からホストファミリー先の子供と仲良くなり、どこに行くときもずっと手をつないでいてかわいかったです。あとは、おはよう、おかえり、おやすみの時はハグをしました。最初は恥ずかしかったけど、だんだん慣れました。

２つ目は、生活の違いです。オーストラリアでは、靴を脱がずに家に入ったり、キリスト教を多くの人が信仰しているので、小学校の教室では毎朝お祈りをしていたり、世界の学校に行けない子供達のための募金箱があったり、あとは日本では絶対にありえない「リセスタイム」といっておやつを食べる時間がありました。その時間が終わったあとはゴミを散らかしたままにするかと思ったらしっかり片付けていました。

また、通常授業に参加するということで緊張していましたが、授業の雰囲気が良かったので実際はあまり緊張すること事なく参加できました。
現地の中高学校にはジムがあったり、体育館に下足で出入りしたりしていたので驚きました。いろいろな生徒さんと話せて楽しかったです。日本の文化を勉強していて少し日本語も交えながらコミュニケーションが取れました。空手と居合道を披露し、初めて見た人が多く、喜ばれたと思います。

僕はオーストラリアに行くのは初めてだったので、メルボルン空港に着いた時とても感動しました。今までとは違う生活を 10 日間送ること事の心配もありましたが、それよりもメルボルンの景色を見られることや現地の人々と触れ合えること事の期待のほうが大きかったからです。

僕が今回のホームステイに行けたのは両親の協力があったこともありますが、オフィスグローバルサポートの手塚さん、堀さん、安曇野市教育委員会の野中さん、そして浅原先生のサポートのおかげでたくさんの素晴らしい経験をさせていただきました。もっと色々な国の人達と交流してみたくなりました。そのために世界共通語の英語をマスターして自分の意見が言えるようになりたいです。そして、将来のやりたいことにつなげます。

優しさ溢れるオーストラリア

三郷中学校　3年4組　相澤　桃香

「私は、英語が話せる。」これは、私の渡航前の気持ちです。Jason先生との英会話レッスンを理解でき、学校の教科書が読める。こんな何の根拠もなく不確かな理由に、私は謎の自信がありました。そしていよいよ渡航当日。私は相変わらず自信を持ってホストファミリーとの面会に臨みました。少し緊張しながら待っていると、「Momoka~」という声が聞こえ、私は挨拶をしに行きました。「Hello」や、「Nice to meet you」は聞き取れるもの、そのほかのこと少ししか理解できません。私の自信は、不安に変わってしまいました。

家に帰ると、すぐにお土産を渡しました。その時にも日本についてたくさんのことを聞かれ、少し不安もありましたが、私に理解できるように分かりやすく話してくれました。その時、私のことをわかってくれようとしていることはもちろん、日本のことも知ろうとしてくれたことがとてもうれしかったので、私はそれにこたえるために不安を希望に変え、なんでも挑戦しようと思いました。

ステラマリス小学校では、英語につまずくこともありましたが、生徒のみんながやさしく接してくれて嬉しかったです。また、数学の授業に参加した時に普段使う言葉を英語でも言えるようになれてよかったです。

家や車内では、積極的に会話に参加したり、「はい」「いいえ」だけでない１歩踏み込んだ質問をしたりして会話が弾み、英語で話すことの楽しさを感じられました。ホストマザー・ファザーは本当の娘のように、ブラザー・シスターは本当の兄弟のように接してくれて、私はホストファミリーがとても大好きです。

また、オーストラリアでは、たくさんの「優しさ」に出会いました。例えば、あなたが人前で失敗してしまったら、どう思いますか？また、あなたの前で失敗してしまった人がいたら、あなたはどのような行動をとりますか？きっと失敗したら恥ずかしいと思うし、誰かの失敗を笑う人もいるのではないでしょうか？しかしオーストラリアでは、そのようなことが１度もありませんでした。誰かが失敗しても、それに挑戦したことを周りの人が褒めてあげていました。私もそれに助けられたし、その考え方がとてもいいと思いました。私も見習っていきます。

私はこのホームステイで英語だけでなく、たくさんのことを学びました。中でも、人にやさしくすることとなんでも挑戦することの大切さをこれから大事にしていきます。このように私が学ぶことができたのは、ホームステイ事業に携わってくれたすべての方のおかげです。貴重な体験を本当にありがとうございました。

Thank you オーストラリア

三郷中学校　３年３組　飯嶌　七虹

この派遣事業に決定の通知をもらってから、「なんで選ばれたのだろう？」そう思っている自分がいました。メンバーのみんなは、英語が上手いだけではありません。生徒会長、生徒会役員、ルーム長などをやっていて、人前で話すことに慣れていました。でも自分は緊張してしまい自分のベストが出せません。それに、大好きな英語もスラスラ言えない。日本語英語になってしまいます。

オーストラリアに着いてホテルへ移動するバスの中では、明日会うホストファミリーと話せるか心配で、頭が痛くなるほど緊張していました。「帰りたい。」とも思っていました。ホストファミリーと対面するために行われたBBQで、どんどんホストファミリーがくる中、私のホストファミリーはなかなか来ませんでした。ホストファミリーが来ない寂しさだけでなく、楽しそうにホストファミリーと話す他のメンバーを見て、「自分もあんなふうに喋れるだろうか。」と不安でいっぱいでした。実際ホストファミリーが来て、「言わなきゃ、話さなきゃ。」と思っていても、私からは話を切り出せませんでした。「このままじゃいけない。」そう思っても行動にうつせませんでした。

そんな私を変えてくれた人は２人います。１人目は、小学校１日目で出会った同じクラスの隣に座った女の子です。授業中ずっと「一緒にやろう！」と言ってくれました。初めて海外の人と喋って楽しいなと思いました。そして、いつの間にか「あれ？私こんなに英語で話している！」そう感じました。２日目も3日目もその子に会えるのを楽しみにしていましたが、その子はお休みで会えず悲しかったですが、その子のおかげでほかの子とも話せるようになり、最後まで小学校での生活を楽しむことができました。もう１人は、ホストマザーです。私の英語の発音を初めて褒めてくれた人です。その時自分の英語に自信がついたと思います。私はこの２人がいなければ、きっと緊張しっぱなしだったと思います。この２人に「ありがとう」と言いたいです。

英語への不安が消えただけなら、今私はもう１度メルボルンに行きたいとは思っていません。そんなふうに思わせてくれたのは、一緒に行った 13 人のメンバーです。ずっと無口で緊張していた私にたくさん話しかけてくれてありがとう。こんな私を面白いって言ってくれてありがとう。私は一生 13 人のメンバーを忘れません。

このホームステイに参加できて本当に良かったです。この経験を活かして、これからもたくさんのことに挑戦していきたいと思います。私を、オーストラリアに行かせてくれた両親、教育委員会の方々、オフィスグローバルサポートの方々本当にありがとうございました。もう一度オーストラリアに行きたいです！

これからの私

三郷中学校　3年3組　扇谷　梨央

オーストラリアで過ごした10日間という短い期間の中で私は、大きく成長することができました。

ホストファミリーと初めて会ったとき、緊張している私に笑顔でどんどん話しかけてくれました。しかし、1回でなかなか聞きとることができず、会話があまり続きませんでした。10日間本当に楽しく過ごせるのか、みんなに呆れられていないか、すごく不安になりました。その日の夜、私は日本からのお土産を渡しました。すると、プレゼントした日本語の入ったTシャツをすぐ着てくれたり、安曇野てまりを部屋にかざったりしてくれました。そして、「安曇野の写真を見たい！」と興味をもってくれました。私と関わろうとしてくれるのがすごく嬉しかったです。

次の日、ホストファミリーのSidneyと一緒にダンスのレッスンに行きました。そこで自己紹介をすると、「オーストラリアのどんなところが好き？」「日本大好き！」と、初対面の子でもたくさん話しかけてくれました。「友達になろう！」と、言ってくれる子もいました。今までの私は自分から話すことが苦手でしたが、伝わらなくてもいいからたくさん話したい！と思えるようになりました。どの人たちも、優しくフレンドリーに接してくれて、すごくうれしかったです。

また、私が帰国する日に隣の家の方が、パブロバというケーキを作ってくれました。ホストファミリーだけでなく、ステラマリスの生徒たちや近所の方など、本当にいろんな人たちが私を歓迎してくれました。

この10日間、言葉の壁を感じることはほとんどありませんでした。それは、英語を話せるかどうかではなくて、コミュニケーションを積極的にとろうとしているかどうかだと思います。　ホストファミリーと別れるとき、大人になったらまた来るね、と約束しました。その時は今よりも英語を上達させておくつもりです。この経験を機に、世界のいろんなところに行きたいと思えるようになりました。

今回のホームステイは、いろんな人の理解や協力があってこそだと思います。そのいろんな人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、学んだことをこれからの人生に生かしていきたいです。

貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

文化交流

堀金中学校　３年１組　長谷川　麗

オーストラリアでの 10 日間、ここには書ききれないほど充実した日々の中で現地の人々の優しさに沢山触れることができ、共通点と相違点を感じ、更に自分の新たな目標を見つけることができました。そして、"文化交流"渡航前に教わったこの言葉の意味について考える旅でもありました。

ファミリーの Douglas 家に初めて会った時、家族みんな仲が良くてずっと笑っていてとてもいい家族だなと感じました。そしてその中に私が、自然と入っていける雰囲気がありました。まず、私をこの家族の一員として迎えてくれてくれたことがとても嬉しかったです。Stella Maris では私が作った手裏剣を嬉しそうにずっと眺めていてくれる子がいました。日本語で話しかけてくれる子もいました。日本に興味を持ってくれることにこんなに喜びを感じたことはありませんでした。一緒に生活していて、小さいながらも自分の考えをしっかり持っていて、それを周りに発信できることに日本との違いを実感しました。現地の人々はとても気さくで優しく、フレンドリーで目があったらニコッと笑ってくれるような人達でした。年が近いからこそ国境を越えても盛り上がる話があるな、と Kilbreda College の生徒や、15 歳のシスターIsabelle と話して感じました。好きな歌手について、互いの学校について、将来の夢について。日本の友人と話す楽しさとさほど変わりはなく、でも何故かその内容に深さを感じ、色々なことを考えさせられました。またマザーの Rachel は私の発する一言一言にいつも耳を傾けてくれていて nice!や lovely!と反応してくれ、その度にちゃんと伝わっているんだと安心しました。誕生日を教えたら『手帳に書いておくね！』と言ってくれました。このような、沢山の人と交わした些細な会話も私にとっては大事なひとつの思い出です。「上手な英語だね！」そう褒めてくれる人がいて、話すことに自信が持てました。また、話したいという思いもいっそう強くなりました。その反面、もっと自分に英語力があればもっと会話が弾んで楽しいんだろうな。と、今よりも更に努力して自分の英語に磨きをかけようと思えるきっかけにもなりました。いずれにしてもこの 10 日間は私を大きく変えてくれる充実した日々でした。色々な人と沢山の文化を交換しました。世界を知るには、自国に対しての知識も必要だと思います。他人を知ることは自分を知ること。身をもって感じました。そして"文化交流"は、ただ互いの国について関心を深めることだけでなく、国を越えて人と関わり、人々の想いに触れることだと思います。“旅行”ではなく、”ホームステイ“だからこそできた数々の経験。Douglas family や皆と交わした『また来るからね！』という約束を果たせるよう更に多くのことに興味を持って挑戦していきます。

ホームステイで得た事

堀金中学校　３年２組　平沢　萌果

１週間で何ができますか。１日で何を学ぶことができますか。私のこの体験はそんな 10 日間の成長を大きく感じるものとなりました。

「自分の英語力を試したい」「現地に行き、本当の英語に触れたい」これは私が参加理由に書かせていただいたことです。いよいよ出発を迎え、オーストラリアへ。初めて会うホストファミリーは私を温かく迎えてくれました。私にとってはじめての留学、完璧な英語で話さないといけないと思い、最初は全く話すことができませんでした。また、本場の英語のスピードは思っていたよりもずっと早く、簡単な単語さえ分かりませんでした。その日の日記には、「分からない…」「出来ない…」という内容ばかりでした。しかし、２日目からの stella maris 小学校では、とても明るい子供たちが学校のことを教えてくれたり、私の手を取って一緒に遊んでくれたりと、英語という壁を越えて楽しむことが出来ました。英語が上手でない私と一生懸命話そうとしてくれている姿を見たら私も伝えたいと強く思いました。その日からの成長はとても大きいものでした。ホストファミリー、学生との会話１つ１つの単語が聞き取れた！話している内容がわかった！話したことが伝わった！など全てが進歩だと感じました。私の話している内容は決して完璧ではなかったと思います。しかし、どの人も私の言いたいことを理解しようとしてくれるので、徐々に思い切り話せるようにもなりました。1 番嬉しかったのは、ホストファミリーとの会話がわかり、笑い合うことができたことです。現地の人々は本当に明るくて、日数が増すほど話せることも増え、喜びも大きいものになりました。一方で私が会話の中で 1 番困ったのが意思表示と相槌です。ホストファミリーにはどっちがいい？とかもっと欲しい？と尋ねられる場面が多々ありました。私は自分の言いたいことが上手く言えず、何度も困りました。また、現地のことについて教えてくれた時も初めは頷くこと事だけで精一杯でした。もっと勉強しておけば良かった、ひとつでも多く単語を覚えておけば良かった…。と何度も思いました。でも、最終日近くになると、今までは単語のみで終わっていた会話も自分から話をつなげたり、質問したりできるようになりました。「あぁ、10 日もあれば本当に変われるんだな」そう、率直に感じました。

みなさんにとってみたら、“たかが 10 日”です。でも、私はこの 10 日間だったからこそ学べたこと、これからの課題を見つけることができたのです。

私はホストファミリーとまた会うと約束をしました。でも、今のままでは行けません。自分の英語に自信が持てるまでもっともっと勉強をして次に会った時、何度も笑い合うことができるようになろうと思います。私を変えてくれたこのホームステイ、そしてこの体験にご協力頂いた皆様に心から感謝致します。

旅の記録

大勢のお見送りの中、安曇野市役所を出発し、成田空港からメルボルンへと旅立ちました。

出発式

出発直前の決意（成田空港）

【ウェルカムパーティ】

　メルボルンに深夜に到着した翌日、ホストファミリーとの初対面です。事前にメール等でやり取りをしていたため、好物の甘い物を作ってきてくれたホストファミリーもいたり、コアラのぬいぐるみをプレゼントに持ってきてくれたホストファミリーもいて、すぐにみんな打ち解けた様子でした。

【ホストスクール Stella Maris Primary School】

　メルボルン郊外のステラマリス小学校へ３日間就学体験しました。それぞれのホストブラザーやホストシスターと一緒に通常授業に参加して、オーストラリアの国際教育を身を持って体験したり、自己紹介や安曇野市の紹介を行い、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自己表現力を高めました。

休憩時間の様子

通常授業の様子

自己紹介の様子

修了書を１人１人いただきました

【大玉送り】

ステラマリス小学校で『Japanese Day』という全校集会を開いていただきました。そこで安曇野の生徒達は日本の運動会で定番の大玉送りを紹介し、全校児童で大玉送りを楽しみました。

大玉送りプレゼンの様子

大きな玉を見ただけでも興奮気味の子供達でしたが、大玉送りの実践は何度やっても接戦で、予想以上に盛り上がりました！

【ホストファミリー】
どのホストファミリーも本当の家族のように温かく受け入れして下さいました。安曇野の生徒達はホストブラザー／ホストシスターのお兄さん、お姉さんとして学校でも家でも一緒に過ごし、英語力だけでなくオーストラリア人の大らかな心やホスピタリティーなど、言葉にできないほど多くの事を学びました。

長谷川麗さんとホストファミリー

江澤彩夏さんとホストファミリー

横山美佑さんとホストファミリー

扇谷梨央さんとホストファミリー

飯嶌七虹さんとホストファミリー

平沢萌果さんとホストファミリー

宇留賀蓮華さんとホストファミリー

大倉彩水さんとホストファミリー

染谷歌桜さんとホストファミリー

小林未來さんとホストファミリー

槲原己空さんとホストファミリー

磯部響さんとホストファミリー

相澤桃香さんとホストファミリー

若林亜結さんとホストファミリー

【Kilbreda College キルブリダカレッジ】
　日本の中学高校にあたるキルブリダカレッジを１日訪問し、同世代の学生と交流したり、インタビューしたり、日本の文化紹介も行いました。同世代ならではの会話で盛り上がり、大興奮の一日でした。

キルブリダカレッジ

インタビューの様子

交流の様子

日本文化紹介の様子

休憩時間の様子

【メルボルン市内観光】

ホームステイ先の地域から電車でメルボルン市内へ行き、一日市内観光を行いました。

メルボルンはヨーロッパ調の伝統的な建築物と近代的な建物が融合する美しい街で、アートの街とも言われています。

ヤラ川沿いにて

メルボルン動物園にて

メルボルン動物園ではオーストラリア固有のコアラ、カンガルー、エミューなどを見ることができました。ビクトリアマーケットやブロックアーケード、ロイヤルアーケードでは沢山お土産を購入し、メルボルンの街を一日堪能しました。

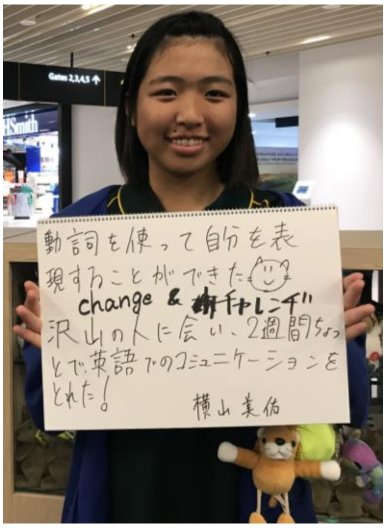
ビクトリアマーケット

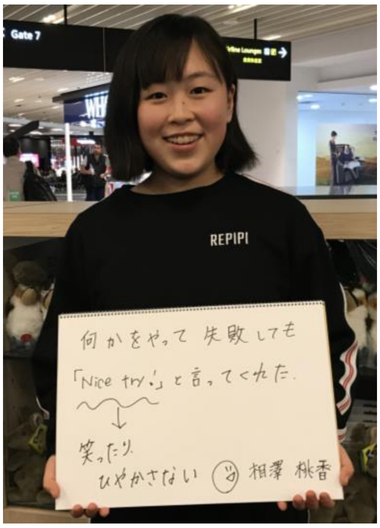
ロイヤルアーケード

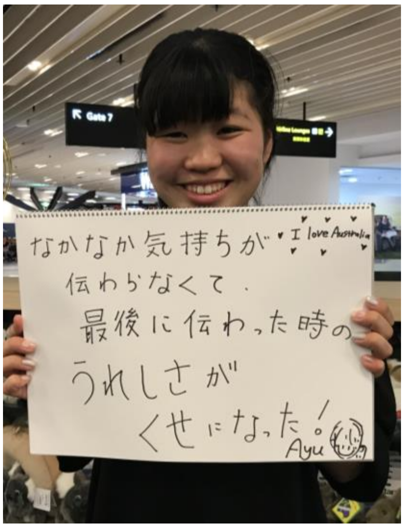
【ホストファミリーとのお別れ】

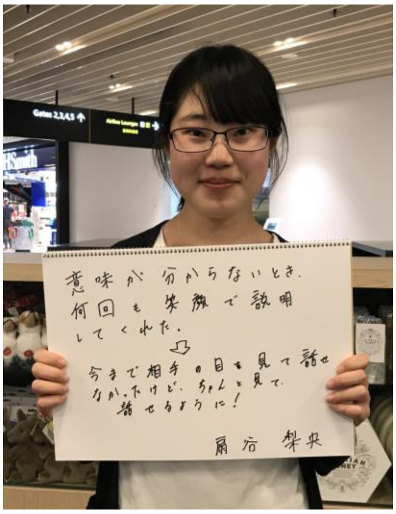
「いつかまたきっと会おう！」と、笑顔でホストファミリーと別れる生徒もいれば、別れがつらくて泣いている生徒もいました。10 日間という短い期間とは思えないほど、ホストファミリーと深い絆で結ばれて、オーストラリアにも家族ができました。

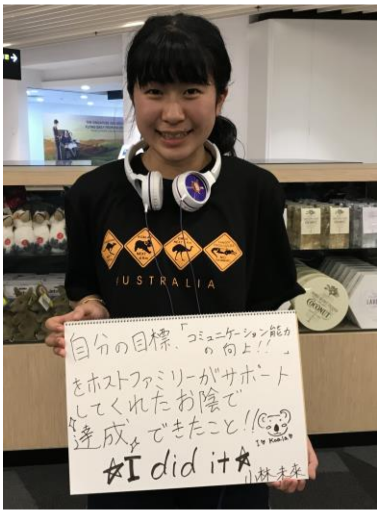
オーストラリアで学んだ事、感じた事（メルボルン空港）

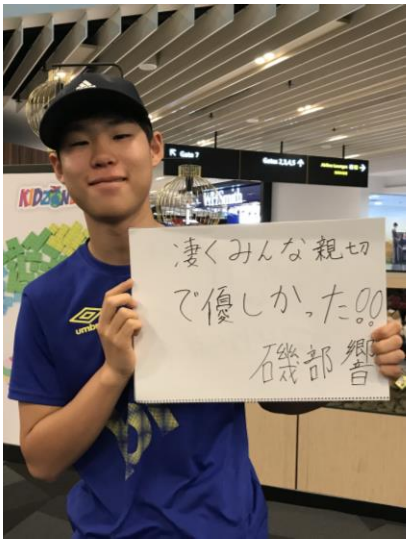


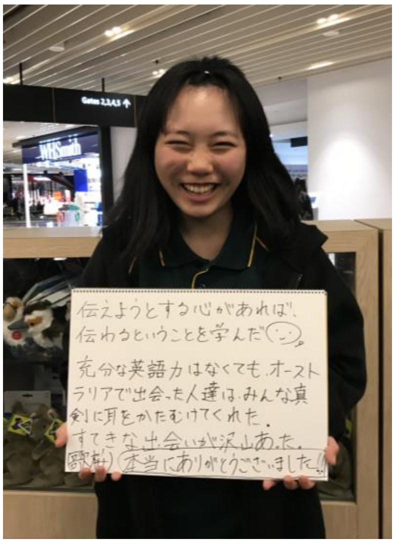


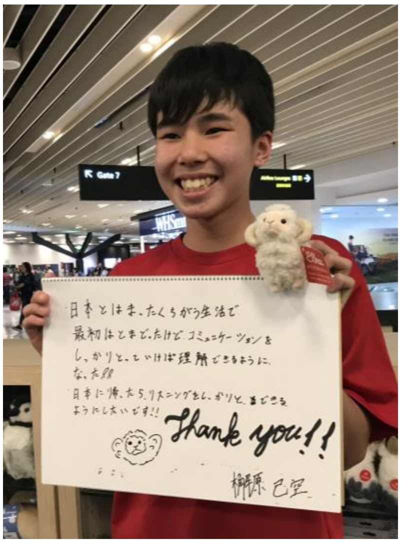












Thank you Australia